

和歌山県内経済情勢報告

(令和6年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直している」(判断を据え置き)

項目	前回(6年1月判断)	今回(6年4月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年4月判断は、前回6年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、持ち直している。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっているほか、雇用情勢は、緩やかに持ち直しているなど、全体としては、持ち直している。

【各項目の判断】

項目	前回(6年1月判断)	今回(6年4月判断)	前回比較
個人消費	持ち直している	持ち直している	→
生産活動	持ち直している	持ち直しのテンポが緩やかになっている	↘
雇用情勢	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	↗
設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	5年度は前年度を下回る見込み	↘
企業収益	5年度は増益見込み	5年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「持ち直している」

百貨店・スーパー販売は、暖冬の影響で冬物衣料品の需要が低調であったことから衣料品で売上が減少している一方で、価格上昇の影響などもあり、飲食料品で売上が堅調となっている。

コンビニエンスストア販売は、人流回復に一服感がみられることや、節約志向の高まりを受けて売上が減少している。

ドラッグストア販売は、価格上昇の影響や化粧品の売上が増加していることから堅調に推移している。

家電大型専門店販売は、一部店舗において前年の補助金の反動でエアコンや冷蔵庫の売上が低調となっている。

乗用車の新車登録届出台数は、一部自動車メーカーの生産停止の影響を受けて新車供給台数が減少していることから、前年を下回っている。

観光動向は、県内主要観光地において、円安の影響などにより外国人観光客数が増加していることから、観光客数は堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- 小売部門について、客数は前年と比べてもほぼ横ばいで、買い上げ点数も微減している程度であるが、各種値上げの影響で客単価が増加しており、売上は2月までの累計で数%増となっている。(農業関係団体)
- 暖冬の影響から冬物衣料品が動いておらず、衣料品の売上は前年を下回っている。コロナの影響がなくなったこともあり、前年と比べると1月、2月の来店客数が増加しており、飲食料品の売上は前年を上回っている。(百貨店・スーパー)
- 商品価格が上がっていることから売上は堅調に推移している。化粧品について、メイク用品の売上が好調となっているほか、3月に入ってから例年よりも早く日焼け止めが売れている。(ドラッグストア)
- 新生活需要が高まっていることからテレビやパソコンの売上が前年を上回っているものの、前年同期に補助金の影響でエアコンと冷蔵庫の売上が良かったことから今期はその反動で売上が減少している。(家電量販店)
- 今年に入ってから一部自動車メーカーにおいて減産の動きが出ており、新車の供給台数が減少している。(自動車販売店)
- 1月、2月についてはコロナの影響がなくなり、遠方からの修学旅行生が増えていることから、前年と比べると観光客数が増加している。また、外国人観光客数については、中国からの観光客が増加しているほか、円安の影響で多くの観光客が訪れており、年明け以降はコロナ禍前の水準を超えている。(公共団体)

■ 生産活動 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

鉱工業生産指数でみると、「石油・石炭製品工業」や「機械工業」などで低下していることから、全体の指数は低下している。

企業からは、機械工業において、中国経済減退の影響が継続していることから受注が低調となっているとの声が聞かれており、生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 中国の内需が引き続き低調となっており、設備投資需要が回復していないことや、計画生産により生産稼働の平準化を図っていることから前年同期比で生産量は減少している。(生産用機械)
- 国内での設備投資意欲が減退していること、人手不足で建物の工期が伸びていることから、今期の生産量は前年を下回っている。(はん用機械)
- 衣料用洗剤については昨年に発売した新商品の売上が好調であることから1月、2月ともに前年よりも生産量が増加しているものの、消毒液については感染症の影響がなくなったことから需要が落ちており、生産量が減少している。(化学)
- エネルギー関連製品の需要は堅調であるものの、自動車メーカーの生産が滞っていることから、自動車関連製品の需要が低調となっている。(鉄鋼)
- 大企業において中国経済減退の影響を受け、受注が低調となっており、厳しい状況となっている。(経済関係団体)

■ **雇用情勢** 「緩やかに持ち直している」

有効求人倍率（6年2月）は、前月と比べて上昇しているほか、新規求人数は、3か月平均で増加傾向にあり、雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

（主なヒアリング結果）

- 「建設業」について、災害復旧の工事や新規の現場での工事が増えていることや新規事業を始める企業が増えていることから新規求人数が増加している。「運輸業、郵便業」について、2024年問題を迎えることからトラックの運転手を中心に人手が不足しているほか、観光需要の高まりを受けてタクシー運転手やバスの運転手の人手も不足している。（公的機関）
- 足下、生産量が減少しているため過剰気味であるが、今後生産量が増える予定であることから繁忙期には派遣社員を雇って対応する予定。（はん用機械）
- 高卒生については人口減少により生徒数が少なくなっているほか、進学する生徒が増えていることから人材を確保することが難しくなっている。（経済関係団体）
- 営業職は充足しているものの、整備士が不足している。新規採用者を多く確保し、自社で育てて整備士の資格を取らせることで人手不足に対応していく予定。（自動車販売店）
- ホテルや旅館の全ての部屋を稼働できていない状況で、依然として厳しい状況が続いている。外国人労働者を積極的に受け入れる動きはあるが、人手不足の解消には至っていない。（観光関係団体）

■ **設備投資** 「5年度は前年度を下回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和6年1-3月期調査）でみると、5年度の設備投資は、全産業で前年度を下回る見込みとなっている。産業別では、非製造業で前年度を上回る見込みとなっているものの、製造業で前年度を下回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「5年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和6年1-3月期調査）でみると、5年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、非製造業で減益見込みとなっているものの、製造業で黒字転化見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 「前年を下回る」

新設住宅着工戸数（3ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲すべてで前年を下回っている。

■ **公共事業** 「前年を下回る」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、国、県で前年を上回っているものの、市町村、独立行政法人等で前年を下回っている。

■ **企業倒産** 「倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている」

倒産件数、負債総額ともに前年を上回っている。

■ **景況判断** 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和6年1~3月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業で「上昇」と「下降」が均衡しているものの、非製造業で「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業で「上昇」超となっているものの、中小企業で「下降」超となっている。

連絡・問合せ先 和歌山財務事務所 財務課 TEL：073-422-6142